

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

北海道大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「大学院課程における各々の教育の特質と目標を明らかにし、充実した教育課程の展開と不断の改善を目指す」としていることについて、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ、大学院教育改革支援プログラム、産学連携による実践型人材育成事業に採択された各種プログラムを通じて、大学院教育課程の充実・改善に努め、学生の主体的な学習・研究を支援していることは、大学院教育の質の向上に貢献している点で、優れていると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10項目）のうち、9項目が「おおむね良好」、

1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、9項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「学生の学修意欲の向上やボランティア等の社会活動を促進するため、顕彰制度の充実を図る」について、1年次の成績が優秀な学部学生に対する「北海道大学新渡戸賞」、大学院博士課程修了者で優秀な女子学生に対する「北海道大学大塚賞」等の奨励金制度や優秀な学部卒業生に対する「財団法人北海道大学クラーク記念財団クラーク賞」、英語成績優秀者に対する「北海道大学レーン記念賞」等の学生表彰制度を制定し、また、各学部・研究科においても独自に顕彰を実施するなど、顕彰制度の充実を図っていることは、学生の学修意欲の向上に寄与している点で、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「大学院課程における学位取得率の向上を図るため、学位授与基準の見直し及び基準設定の拡大に努める」について、学位授与に関する指針を制定するなど改善しているものの、その指針が実施段階にまで至っておらず、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成16～19年度の評価において、
中期計画「大学院課程における学位取得率の向上を図るため、学位授与基準の見直し及び基準設定の拡大に努める」について、各研究科において、学位授与基準は設定しているものの、学位授与基準の見直しや基準設定の拡大に関しては、体制整備を含め検討段階であり、中期計画が十分進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる
と指摘したところである。

平成20、21年度においては、学位授与に関する指針を制定するなど取り組んでいるものの、その指針が実施段階にまで至っておらず、十分には実施されていないことから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「学生のサークル活動やボランティア活動等に対する支援機能の整備充実を図る」について、サークル活動等の学生生活の充実や地域社会との連携を支援する「北大元気プロジェクト」の実施、ボランティア活動等を支援するための「学生ボランティア活動相談室」「ボランティア養成講座」の開設等、学生の自主的活動を積極的に支援していることは、優れていると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「先端的・複合的領域において、世界的研究拠点として、あるいは研究拠点形成を目指して、研究を推進する」としていることについて、文系から理系までの幅広い分野で大学として重点的研究課題を選定し、21 世紀 COE プログラム、科学技術振興調整費先端融合領域イノベーション創出拠点の形成プログラム、グローバル COE プログラム等の競争的資金を活用しながら、先端的・複合的領域の研究拠点形成を目指した先進的研究が推進され、着実に成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「地域産業の高度化・安定化等並びに新規起業に寄与する研究を推進する」としていることについて、科学技術振興調整費戦略的研究拠点育成プログラムに採択された「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」を地元自治体等と共同で推進し、人獣共通感染症の診断・治療法の開発や移植医療・組織工学、食の安全・安定供給、環境・科学技術政策等の研究に取り組み、その研究成果の特許取得、商品化につなげるなどの成果を上げていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「北海道及び周辺寒冷地の自然環境、文化、産業、生活等に関わる地域性・公共性を重視した研究をこれまで以上に強化し、北海道、さらにはアジア、北方圏地域をはじめとする国際社会への貢献を図る」について、地球システムにおける寒冷圏の役割に関する研究、アイヌ民族をはじめとする北方諸民族の研究、ロシアをはじめとするスラブ・ユーラシア地域と隣接地域との相互作用に関する研究等、地域社会

や国際社会に密接した研究を推進していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良

好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

- 中期計画「産学官の連携・協力機能が集積された札幌北キャンパスにおいて、関連する研究所等のほか、産学連携施設、民間資金活用関連施設の整備を図り、交流のさらなる活性化を推進する」について、新事業の創出・育成を目指す中小企業基盤整備機構の「北海道大学連携型インキュベータ（仮称）」、民間企業との共同研究施設「創薬基盤技術研究棟」等、地元企業等との連携を図り産学連携施設の整備を積極的に進めていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「国際交流の企画立案にあたる組織を平成 16 年度から設置し、国際交流の活性化を図る」について、大学国際戦略本部強化事業に採択された「持続可能な開発」を推進するため、国際戦略本部を設置し、国際シンポジウムを開催するなど、国際交流の活性化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「国際交流の企画立案にあたる組織を平成 16 年度から設置し、国際交流の活性化を図る」について、平成 16 年度に設置した「国際交流室」を中心に「持続可能な開発」を中心領域とした事業を展開し、平成 20 年度は北海道大学総長が実行委員長となった G 8 大学サミットを開催し、「札幌サステナビリティ宣言」の採択に貢献したことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「国際交流の在り方等について海外大学等の有識者による外部評価や意見交換等を実施する」について、平成 20 年度に世界主要大学の学長等との意見交換や、平成 21 年度に IAU（国際大学協会）に委託して国際活動外部評価を実施するなど国際交流の在り方等について海外大学等の有識者による外部評価や意見交換等を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「国際交流の企画立案にあたる組織を平成 16 年度から設置し、国際交流の活性化を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「特色ある点」参照）
- 中期計画「国際交流の在り方等について海外大学等の有識者による外部評価や意見交換等を実施する」について、平成 16～19 年度の評価においては、外部者との意見交換は実施されているが、外部評価の実施が認められない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。（「特色ある点」参照）